

日時	平成 年 月 日	第 限 (六五分)
対象生徒	一年 組	
教材・教科書	古文「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』巻一の一二)、『新精選国語総合』(明治書院)	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の世界に興味と親しみを持たせる。</li> <li>・古語と現代語とを比較し、仮名遣いや意味の違いを理解させる。</li> <li>・登場人物の心情を理解し、その文化的な背景を理解する。</li> <li>↓学習指導要領との関連 指導事項Aア Bア Cウ Cエ、言語事項エオ、教材に関する事項「我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てる」</li> </ul>	
指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児のそら寝」を三限で取り扱う。</li> <li>・古文のリズムに親しませるため、繰り返し音読をさせる。</li> <li>・古文に多く見られる省略語を注意させ、あらすじを理解させる。</li> <li>・古文に特徴的な表現とその内容を理解させ、登場人物間の心情を把握する。</li> <li>・登場人物の心情の背景にある、日本の文化に興味、関心を持たせる。</li> <li>↓本時間は、全三時間中の第三時間目</li> <li>↓前時間の内容：古語の語注、話の大筋をつかむ。</li> </ul>	
指導内容	時間	指導上の留意点、観点別評価
導入 児のそら寝の音読と前時間の復習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児のそら寝を音読する</li> <li>◇全体、列ごと、個人で読ませる</li> <li>・前時間で学んだあらすじ、古文単語や表現の復習</li> <li>◇ノートのとり方、辞書の引き方を巡視確認</li> </ul>	五分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時間で学んだ歴史的仮名遣いに留意させる。</li> <li>・単語と単語との切れ目、意味内容のまとまりに気をつけて読ませる。</li> <li>・読みのとどまったところは、意味の取り方の誤りが見られるので留意させる。</li> <li>・現代語にはない言葉や、古今異義語を確認する。</li> <li>□知識理解：表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、知識を身につける。</li> </ul>
展開 あらすじの確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児の(心内)発話、僧の発話を指摘させる</li> <li>登場人物の心情把握</li> <li>・僧の心情を理解させる。</li> <li>◇「笑ふことかぎりなし」に着目させる。</li> <li>・児の心情の変化を確認する</li> <li>◇心内発話を順に確認させる。</li> <li>登場人物の心情に関わる文化的背景への理解を促す</li> <li>・児が寝たふりをしたのはなぜか。その根拠を本文中から探す。</li> <li>◇「し出さんお待ち寝ざらんもわろかりなん」</li> <li>◇「待ちけるかともぞ思ふ」に着目させる</li> <li>・児がどうしてそのような心情に至ったのか、さまざまな可能性を考える。</li> <li>◇文章化し、発表させる。</li> </ul>	四五分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の展開の軽快さを味わいさせつつ、どの部分が誰の言葉であるかを把握させるように注意する。</li> <li>・古文には省略語が多いことに注意させる。</li> <li>・正解が求められているのではなく、話の流れのなかで考えられる可能性を探る。</li> <li>・児の心内語の部分に、形容詞や感動詞、終助詞が効果的に用いられていることに目をむけさせる。</li> <li>・会話文や心内発話以外にも、児の心情を説明した部分があるので着目させる。</li> <li>・子どもが主人公なので親しみやすさがある反面、生徒の先入観も強くなるので注意する。あくまでも本文にそった根拠を見つけさせる。</li> <li>・児が寝たふりをした理由について生徒からさまざまな意見を出させる。出された意見をグループにわけてみる。</li> <li>・それぞれのグループが本文のどこを重要視した上での意見のかを確認する。</li> <li>□読む能力：児の心情を想像し、話の展開やおもしろさを味わう。</li> <li>□書く能力：自分の考えをまとめたり深めたりする。</li> <li>□話す・聞く能力：目的や場面に応じ、話したり聞き取ったりする。</li> </ul>
まとめ 文化的背景を踏まえ、児の心の揺れや、寝たふりをしていた理由をまとめる <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児」の社会的地位、属する階級の生活様式について考える。</li> <li>◇現代の子どもの共通点と相違点を発言させる。</li> <li>・「僧」の社会的地位、生活様式について考える</li> <li>◇現代の寺のイメージと比較させる。</li> <li>・文化的背景を踏まえて、児のそら寝のおもしろさを再確認する。</li> </ul>	一五分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代文化のなかにおける子どもの心情と、児の有する文化的背景から生まれる心情の違いをおさえる。</li> <li>・「児」「僧」のイメージをふくらませる資料があれば適宜紹介する。</li> <li>・児の文化的背景を理解させたうえで、展開中に出された生徒の意見の妥当性を協議する。</li> <li>・あらすじを追うだけでは見えてこなかった児の心の大きなゆれについて理解ができたかどうか確認をする。</li> <li>・『宇治拾遺物語』の巻一の二三に見られる「田舎児桜散みて泣事」を紹介し、児と風流心との関連性を指摘してもよい。</li> <li>□関心・意欲・態度：我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、古文を積極的に学ぼうとする姿勢を見る。</li> </ul>

Name : \_\_\_\_\_  
Date : \_\_\_\_\_  
Title : 児のそら寝  
Author : 『宇治拾遺物語』

# CHARACTER TRAITS WEB

Character's  
appearance

ちこの印象、様子

Character's actions  
and thoughts

ちこの行動や思い

Character

ちこ

ちこのせりふ

Character's  
words

他者のちこに対する接し方

How others react  
to the character